

家庭医療専門研修プログラム Ver2.0 家庭医療専門医に必要な能力 2013.5.13	
診療と活動の場面	必要な能力
外来医療	頻度の高い健康問題に対応し、相談にのり、適切な問題解決や安定化はかることができ、必要な専門家に紹介することができる。
	健康問題は臓器、年齢、性別によって制限されず、また生物医学的アプローチと心理社会的なアプローチをバランスよく組み合わせた診断ができる。
	一般的な症候に対して適切な対応と問題解決ができる。
	頻度の高い外来急性期疾患について診断と治療ができる。
	頻度の高い慢性疾患のケアができる。
	各科専門医と協働して診療にあたることができる。
	救急外来において、重大な疾患を見逃さず、軽症救急全般及び中等症救急の一部を担当できる。
	定期健康診断の実施と判定ができる。
	全年代にわたる必要なワクチン接種ができる。
	科学的根拠に基づいたスクリーニングができる。
	栄養、運動などの適切な生活習慣の提案ができ、必要な場合に行動変容のアプローチができる。
	健康な領域を患者とともに見出し、維持していくヘルスプロモーション活動ができる。
	継続的な医師患者関係の構築を診療の中心に位置づけることができる。
	患者及びその家族が、地域で生活していく上での、常に身近な保健・医療上の資源として自らを位置づけ、身近な「かかりつけ」医機能を果たすことができる。
	患者の考えや状態を代弁して専門家に伝える機能を持ち、診療へのアクセスの保証を行うことができる。
	患者のライフコースに沿ったケアを行うことができる。
家族と地域の文脈・背景を考慮したケアができる。	
外来診療や慢性疾患管理のシステム構築ができ、診療の質改善のための活動を継続的に実践できる。	
病棟医療	当該地域医療機関において入院頻度の高い疾患あるいは健康問題に対する診断と治療ができる。
	検査・治療手技は診療の場の状況に依存するが、頻度の高い一般的なベッドサイドの手技を実施できる。
	外来・在宅などと切れ目のない連携が必要な虚弱高齢者の入院ケアができる。
	併存疾患の多い患者の主治医機能をはたすことができる。
	心理社会倫理的複雑事例への対応とマネージメントができる。
	地域連携を活かして退院支援ができる。
	癌及び非癌患者の緩和ケアができる。
	診断困難事例への対応ができる。
	安全管理、診断の質保証など、病院運営上のマネージメントができる。
	病院内医療者への教育活動ができる。
在宅医療	在宅医療に必要とされる老年医学的諸問題に対応できる。
	在宅急性期医療に必要な、アセスメント、入院適応の判断、予期せぬ臨死期の対応ができる。
	在宅緩和ケアに必要な、疼痛管理、疼痛以外の症状管理、スピリチュアルケア、悲嘆ケア、臨死期の対応ができる。
	在宅医療に関連した各種制度を理解・活用できる。
	在宅医療に関連した倫理的判断ができる。
地域・コミュニティ志向型ケア	グループホーム、老健施設、特別養護老人ホームなどの施設入居者の日常的な健康管理ができる。
	施設入居者の急性期の対応と入院適応の判断を、入院施設と連携して行うことができる。
	地域の保健医療上の必要性に応じて、医療活動を行うことができる。
	学校医業務ができる。
	産業医業務ができる。
	医療福祉に関する地域への啓発活動ができる。
	地域の優先度の高い健康管理問題を同定し、対策をたて、解決に資することができ、地域全体の健康度の向上に寄与できる。
	特定の健康問題をもった人口集団へのアプローチができる。
教育・研究	診療の場に即して、自らの学習課題を設定し、自ら学ぶ、自己決定型学習ができる。
	生涯学習に必要な情報通信技術を使うことができる。
	診療の場で生じた疑問について、EBM手法を利用して解決できる。
	診療で生じる予想外の出来事を振り返り、教訓を引き出し、次の学びや実践の課題を設定する省察的実践ができる。
	様々な専門家との人的ネットワークを構築し、対話するなかで学ぶことができる。
	医学部における卒前地域医療教育を担当できる。
	初期研修医の地域保健医療研修の指導医ができる。
	家庭医療専門研修プログラムの指導医の役割を果たすことができる。
	フィードバック技法などの、医学教育の基本手的な考えかたを応用実践することができる。
	多職種連携教育の原則に基づく共同学習を組織できる。
	プライマリ・ケアや地域医療における研究の意義を理解し、様々な形で協力・実践できる。
量的研究、質的研究双方の方法と特長について理解し、批判的に吟味でき、各種研究成果を自らの診療に活かすことができる。	

家庭医療専門医研修プログラムVer2.0 研修目標及び研修の場		プログラムでの研修設定 ◎:主たる研修の場 ○:従たる研修の場											
		学会推奨 ◎:主たる研修の場、○:研修可能な場											
		総合診療専門研修Ⅰ (診療所/小病院)		総合診療専門研修Ⅱ (病院総合診療部門)		内科		小児科		救急科		他の領域別研修	
プログラム名:	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	
I. 一般的な症候への適切な対応と問題解決 以下に示す症候すべてにおいて、臨床推論に基づく鑑別診断および、初期対応(他の専門医へのコンサルテーションを含む)を適切に実施できる。													
ショック	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
急性中毒	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
意識障害	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
全身倦怠感	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎			
心臓停止	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
呼吸困難	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
身体機能の低下	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
不眠	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
食欲不振	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
体重減少・むいそう	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
体重増加・肥満	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
浮腫	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
リンパ節腫脹	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○					
発疹	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	
黄疸	○	○	○	○	○	○							
発熱	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
認知能の障害	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
頭痛	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎			
めまい	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
失神	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
言語障害	○	○	○	○	○	○							
けいれん発作	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎			
視力障害・視野狭窄	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○	○	
目の充血	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
聴力障害・耳痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
鼻漏・鼻閉	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎	
鼻出血	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
さ声	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
胸痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎			
動悸	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎			
咳・痰	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
咽頭痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
顔面	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○	○	
顔面	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○	○	
嚥下困難	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○	○	
嘔吐・下血	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
嘔気・嘔吐	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
胸やけ	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎			
腹痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
便秘異常	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○					
肛門・会陰部痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
熱傷	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
外傷	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
褥瘡	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
背骨痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
腰痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
関節痛	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
歩行障害	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
四肢のしびれ	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
肉眼的血尿	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
排尿障害(尿失禁・排尿困難)	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
乏尿・尿閉	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
多尿	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
精神科領域の救急	○	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	
不安	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
気分の障害(うつ)	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
流・早産及び過期産	○	○	○	○	○	○					◎	◎	
女性特有の訴え・症状	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
成長・発達の問題	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
II 一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント 以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントができる。また、()内は主たる疾患であるが、例示である。 ※印の疾患・病態は90%以上の経験が必要だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。													
(1) 血液・造血器・リンパ網系疾患													
※[1]貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○			
※[2]白血病													
※[3]悪性リンパ腫													
※[4]出血傾向・紫斑病				○	○	◎			○	○			
(2) 神経系疾患													
※[1]脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)	○	○	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
※[2]脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)	○	○	○	○	○	○			◎	◎	◎	◎	
※[3]変性疾患(パーキンソン病)	○	○	○	○	○	○							
※[4]脳炎・髄膜炎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎			
※[5]一次性頭痛(偏頭痛、緊張性頭痛、群発頭痛)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○					
(3) 皮膚系疾患													
※[1]湿疹・皮膚炎群(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚欠乏性皮膚炎)	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎			◎	◎	
※[2]蕁麻疹	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	
※[3]凍瘡	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	
※[4]皮膚感染症(伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、白癬症、カンジダ症、尋常性ざ瘡、感染性粉瘤、伝染性軟肉腫、疥癬)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	
(4) 運動器(筋骨格)系疾患													
※[1]骨折(脊椎圧迫骨折、大腿骨頭部骨折、橈骨骨折)	○	○	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
※[2]関節・靭帯の損傷及び障害(変形性関節症、捻挫、肘内障、腱板炎)	○	○	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
※[3]骨粗鬆症	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
※[4]脊柱障害(腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱狭窄症)	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	◎	◎	
(5) 循環器系疾患													
※[1]心不全	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎			
※[2]狭心症、心筋梗塞	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
※[3]心筋症							○	○	○	○			
※[4]不整脈(心房細動、房室ブロック)	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
※[5]弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)	○	○	○	○	○	○	○	○					
※[6]動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)	○	○	○	○	○	○							
※[7]静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
※[8]高血圧症(本態性、二次性高血圧症)	◎	◎	◎	◎	◎	◎							

